

研究協力校： 坂 本 中 学 校 中 津 商 業 高 等 学 校

平成13年度の成果と課題	
<p>研究推進体制、教師の意識等について</p> <p>授業の実践・交流を通して、互いの生徒の実態を把握したり、指導方法等の違いを認識したりすることができ、中学校と高等学校の連携の必要性を実感することができた。</p> <p>中高の連携をすすめるためには、それぞれの学校においてどのような指導構想をもって進めているのかを理解し合うことが必要であることを確認できた。</p> <p>研究推進が担当者レベルになりがちであったので、教科部全体で取り組んでいくことが求められる。</p>	<p>生徒の実態等について</p> <p>イマージョン・プログラムの成果として、英語に触れる機会が確実に増え、生徒の英語に対する意欲を高めることができた。</p> <p>「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動に対して、意欲的に取り組む姿が見られるが、基礎的・基本的な内容の一層の定着を図る必要がある。</p>

研 究 テ ー マ

実践的コミュニケーション能力を育てる指導の在り方  
～聞くこと・話すことを重点として～

平成14年度の具体的な取り組み内容	
<p>中学校として</p> <p>学習過程における指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒とのインタラクションを大切に した導入の工夫</li> <li>・対話活動を成立し、継続させるために必要な語彙や表現の定着の工夫</li> <li>・ねらいを達成するための学習形態 (ペア、グループ、スクランブル等) の工夫</li> </ul> <p>自分のよさや次のめあてが意識できる評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価、相互評価の場と方法</li> </ul> <p>ネイティブ・スピーカーを生かした活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択授業におけるイマージョン・プログラムの活用</li> </ul>	<p>高等学校として</p> <p>学習過程における指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや思いを伝え合う言語活動(ディスカッション等)の工夫</li> <li>・ねらいを達成するための学習集団の編成(少人数指導)の工夫</li> </ul> <p>自分のよさや次のめあてが意識できる評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導を生かした評価の在り方</li> </ul> <p>ネイティブ・スピーカーを生かした活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション形式によるコミュニケーション活動</li> </ul>